

【資料5】A校における研究計画例

第 2 年 次

第1年次の実践の累積をもとに、検証の過程を重視し、指導の仮説をふまえた授業実践を中心として、行動の変容、仮説の有効性の検証にあたり、研究の成果をまとめる。

月	主 な 研 究 活 動	備 考
4	○第2年次研究計画の確認 ○組織の編成 ○新年度児童生徒の実態把握	○実践充実期
5	○事例研究の実践 ○研究発表会の計画 ○各プロジェクト研究の協議 ○第一次案内状発送	↓
6	○事例研究と授業の実践 ○授業研究会の実施	
7	○事例研究へまとめ及び考察 ○問題点の整理 ○研究集録編集計画 ○研究発表会内容の検討	○整理考察期
8	○研究集録原稿作成 ○研究公開授業の検討 ○事例研究報告会	↓
9	○授業研究会の実施 ○分科会・全体会報告内容の検討 ○第二案内状の発送 ○公開授業案の作成	
10	○研究集録、要項、公開授業案印刷 ○研究発表会準備	(研究発表会)
11	○研究発表内容の検討 ○研究発表会開催 ○発表会実施計画の作成	○評価反省期
12	○研究発表会の反省 ○本年度研究実践のまとめ	○整 理 期
1	○研究報告書の作成	↓
2	○次年度研究主題（仮主題）の設定	
3	○次年度研究計画の立案	

- 共通理解が図られない。
- 教育目標や努力目標とかけ離れてしまった。
- 協同体制がとれない。
- 研究の目的がしぼれない。
- 継続的に進められない。
- 研究のための用語の統一が図られない。
- 年間計画の中に、研究推進の計画が十分に位置づけられていない。
- このような問題点を解決するため
- ① 日常の教育活動から離れた研修活動にならないこと。
- ② 児童生徒の教育活動に反映される成果を求めること。
- ③ 全教職員が、校務分掌の中で、各々の専門分野が生かされる組織であること。
- ④ 校長、教頭はじめ研究推進委員会は、研修に取り組みやすい雰囲気づくりに努めること。
- ⑤ 研修日の設定や、学部会、教科部会など関連づけたりして、研修時間を計画的にとり、余裕をもって進められるようにすることなどをふまえておく必要がある。

